

災害発生時の衛生管理について



震災で被害を受けた地域では、消化器系感染症（ノロウイルス等）や呼吸器系感染症（インフルエンザ）、あるいは食中毒が発生する可能性が高くなりますので、衛生管理に注意し病気を予防することが大切です。以下の点に注意して感染症や食中毒の予防に努めましょう。

- (1) 外出後、トイレの後、汚物の取扱い後、調理や食事の前には、石鹸と流水でしっかり手を洗うようにしましょう。また、せきが出る場合は、マスクを着用しましょう。
- (2) 調理をする場合は清潔に努め、できる限り衛生的な環境で、新鮮な材料、清潔な器具によって調理しましょう。加熱したものを食べるようにし、調理したものは、早めに食べるようにしましょう。
- (3) 下痢や嘔吐物の処理は、マスクや手袋を着用し、ペーパータオル等で下痢や嘔吐物を拭き取り、ビニール袋に入れ、しっかり封をして廃棄しましょう。また、汚染された場所の消毒には次亜塩素酸ナトリウム（塩素系漂白剤）が有効です。家庭用塩素系漂白剤の塩素濃度は約5～6%ですので、以下を目安に消毒液を作ってください。
 拭き取り用：水1000mlに対しペットボトルキャップ1杯
 汚れがひどい場合：水1000mlに対しペットボトルキャップ4～5杯
- (4) がれきの片づけなどをする際は、手袋を着用するなどしてケガをしないよう注意しましょう。また、夏から秋にかけて蚊の活動が活発になりますので、肌の露出を減らし、虫よけスプレーなどをうまく活用しましょう。

ヘルパンギーナの報告数が増えました

ヘルパンギーナの報告数は71件で、前週より報告数が31件増えました。ヘルパンギーナは「夏かぜ」の代表的な病気であり、ウイルスが原因でおこります。主に乳幼児がかかり、突然高熱が出て、口の中に水疱や発赤が出現し痛みを伴います。口の中の痛みなどから、食事や水分が十分にとれず、脱水になることもあります。また、合併症として、まれに髄膜炎や心筋炎が起こることがあります。食事や水分がとれない、頭痛や嘔吐、発熱が続く場合は、早めに医療機関を受診するようにしましょう。

感染経路

- ・咳やくしゃみ、つばなどのしぶきに含まれるウイルスによって感染します（飛沫感染）。
- ・便に排出されたウイルスが手などを介し、口や眼などの粘膜に入って感染します（経口、接触感染）。

予防のポイント

- ・外から帰った後、食事の前、トイレの後などに手洗いをしっかりと行うことが大切です。また、うがいも有効です。
- ・幼稚園、保育園や学校などの集団生活では、タオルを共用することは避けましょう。
- ・予防接種はありません。



ヘルパンギーナの報告数が増えました



県内の患者数

	今週	前週		今週	前週
インフルエンザ	↓ 3	9	百日咳	→ 0	0
RSウイルス感染症	→ 3	3	ヘルパンギーナ	↑ 71	40
咽頭結膜熱	↓ 13	16	流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	↑ 77	50
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	↑ 94	83	急性出血性結膜炎	→ 0	0
感染性胃腸炎	↑ 323	300	流行性角結膜炎(はやり目)	↓ 7	11
水痘	↓ 8	15	細菌性髄膜炎	→ 0	0
手足口病	↑ 36	27	無菌性髄膜炎	↓ 0	3
伝染性紅斑(りんご病)	↓ 13	22	マイコプラズマ肺炎	↓ 4	5
突発性発疹	↑ 54	51	クラミジア肺炎	→ 0	0
			感染性胃腸炎(ロタウイルス)	→ 0	0

報告が多い感染症

- 感染性胃腸炎
- A群溶血性レンサ球菌咽頭炎
- 流行性耳下腺炎

大きな流行が発生又は継続しつつある地域
伝染性紅斑 : 山鹿

◆◆◆保健所別発生状況(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹定点)◆◆◆

保健所名	インフルエンザ	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発疹	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎	感染性胃腸炎(ロタウイルス)
1 熊本市保健所	1	0	7	29	74	2	11	0	18	0	10	14	0	7	0	0	1	0	0
2 山鹿保健所	0	0	0	0	18	0	0	2	3	0	0	7	0	0	0	0	0	0	0
3 菊池保健所	0	0	2	9	71	2	9	4	16	0	10	17	0	0	0	0	0	0	0
4 阿蘇保健所	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5 御船保健所	0	0	0	6	13	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6 八代保健所	0	0	0	7	37	0	4	1	3	0	2	15	0	0	0	0	0	0	0
7 水俣保健所	0	0	0	5	1	1	2	0	0	0	5	0	0	0	0	0	1	0	0
8 人吉保健所	0	0	0	5	18	0	1	0	1	0	2	2	0	0	0	0	1	0	0
9 有明保健所	0	2	1	6	42	1	2	0	5	0	27	11	0	0	0	0	1	0	0
10 宇城保健所	2	1	1	18	14	0	1	3	3	0	7	5	0	0	0	0	0	0	0
11 天草保健所	0	0	2	9	29	1	6	3	5	0	8	6	0	0	0	0	0	0	0
計	3	3	13	94	323	8	36	13	54	0	71	77	0	7	0	0	4	0	0

◆◆◆年齢別発生状況(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹定点)◆◆◆

インフルエンザ定点年齢区分	合計	0-5カ月	6-11カ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14歳	15-19歳	20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60-69歳	70-79歳	80歳以上	
インフルエンザ	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	
小児科定点年齢区分	合計	0-5カ月	6-11カ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14歳	15-19歳	20歳以上							
RSウイルス感染症	3	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0							
咽頭結膜熱	13	0	1	5	0	3	2	1	0	1	0	0	0	0								
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	94	0	0	5	5	13	14	14	5	8	15	1	11	0	3							
感染性胃腸炎	323	2	31	62	41	23	34	21	21	15	12	9	27	8	17							
水痘	8	0	0	1	0	2	0	2	2	0	0	0	0	1	0							
手足口病	36	0	3	17	9	3	1	1	0	1	1	0	0	0								
伝染性紅斑	13	0	0	0	2	0	4	1	2	0	3	0	1	0	0							
突発性発疹	54	0	26	25	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0								
百日咳	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0								
ヘルパンギーナ	71	0	10	21	17	10	4	5	1	0	3	0	0	0								
流行性耳下腺炎	77	0	1	3	9	12	20	8	9	9	2	1	1	1	1							
眼科定点年齢区分	合計	0-5カ月	6-11カ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14歳	15-19歳	20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60-69歳	70歳以上		
急性出血性結膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
流行性角結膜炎	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	1	1	2	0		
基幹定点年齢区分	合計	0歳	1-4歳	5-9歳	10-14歳	15-19歳	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70歳以上					
細菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0						
無菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0						
マイコプラズマ肺炎	4	0	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0						
クラミジア肺炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0						
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0						

